

ぶらりまち紀行

悠久の時を超えて今に受け継ぐ伝統の舞が
羽落神社と杉尾神社の例祭で奉納される
地域の誇りと伝統の灯を引き継ぐため
ふるさとを愛する若連中が祭りを盛り上げる



～地域の輝き～ 浦ノ内の獅子舞（桑野地区）



獅子に合わせて獅子と唐子（男児）が舞い踊る「浦ノ内の獅子舞」は、市の無形民俗文化財に指定されている民俗芸能。古来より厄病を払い、まちの繁栄を祝う縁起ものとして継承されてきた。

獅子舞の奉納は、境内にできた人垣の輪の中で行われる。野に眠る獅子を見つけた唐子が、様子をうかがいながら「ちよっかい」を出し、最後には果敢にも獅子と戯れるという筋書き。睡魔に襲われながらもいきり立つ獅子の繊細かつ豪快な頭の振り回しと唐子の勇壮な姿は、180年にわたって受け継がれてきた伝統美。人々は、清められた注連縄（しめなわ）を携え、獅子に宿る先人たちの思いに耳をすませた。

地域の子どもがこぞつて集まる夜の余興では、おでんと焼きそばが振る舞われ、相撲やゲームで嬉遊する。おやじたちは爛場と呼ばれる炊事場で温めた祝い酒をたしなむ。酒のあては子どもたちの笑顔だ。伝統を重んじ、祭りを盛り上げるためなら労を惜しまない若連中の心もまた温かかった。

地域の絆が色濃く残る浦ノ内。祭りには地域の誇りとして受け継がれ、新たな連帯感を生み出している。

